

気温上昇で自殺リスクも上昇する

◆世界的な健康リスクとなっている気温上昇

2018年夏、日本各地は猛暑に見舞われ、連日のように、熱中症がニュースに取り上げられた。気温が高い中で、適切な対策を行わないと、熱による消耗で身体機能を損ない、場合によっては臓器不全を起こし、死に至ることもある。

18年7月16日に発表された非政府組織「万人のための持続可能なエネルギー (Sustainable Energy for All)」のレポート「Chilling Prospects: Providing Sustainable Cooling for All」によれば、全世界で11億人が適切な冷房を使えない状況にある。内、4.7億人は貧困な地域で、安全な医薬品や食品を入手することが難しく、6.3億人はより暑く貧困な地域で、熱波を防ぐことが難しい。18年5月15日に発表された国際エネルギー機関 (IEA) のレポート「The Future of Cooling」によれば、日本や米国では90%を超える家庭がエアコンを所有するのに対し、冷房を最も必要とする地域の28億人には8%しか普及していない。

世界保健機関 (WHO) の推計によれば、毎年12万人が高い気温に関連した原因で亡くなっており、50年には、それが25万人にも達するとされている。極端な例として、03年夏の欧州の熱波では、7万人以上が死亡したという推計もある。

◆気温上昇に伴って増加する自殺リスク

気温上昇が精神衛生にも影響する可能性を示す研究結果が、18年7月、米国スタンフォード大学を中心とする研究グループによって報告された。米国とメキシコにおける数十年にわたるデータの解析から、月平均で気温が1℃上昇すると、米国では0.7%、メキシコでは2.1%、自殺率が上昇した。また、6億件を超えるソーシャルメディアでのうつ的な言動の解析から、気温が高い時には精神状態が悪化することも示された。50年には、米国とメキシコを合わせて9千人～4万人の範囲で気温上昇による自殺者の増加が予測されている。

気温上昇は肉体的にも精神的にも健康リスクを増加させる。しかし、冷房はすでに全電力消費量の10%を占めている。電力消費の少ないエアコン、温暖化効果の小さい冷媒などの開発が切望されている。

【戸潤一孔】